

2019年
4-6月期

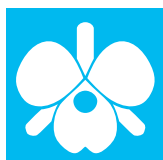
県内景況・確報

◎概況

県内景況は、拡大している

●2019年4-6月期 おきぎん「カトレア」景況図●

県内景況



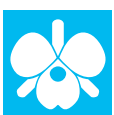
良い

個人消費



やや良い

建設関連



良い

観光関連



良い

生産動向



ふつう

企業倒産



やや良い

雇用状況



良い

2019年4-6月期の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同期を上回りました。百貨店売上高も前年同期を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、冷蔵庫、洗濯機が伸び、前年同期を上回りました。新車販売台数は、レンタカー需要の減少などにより、前年同期を下回りました。

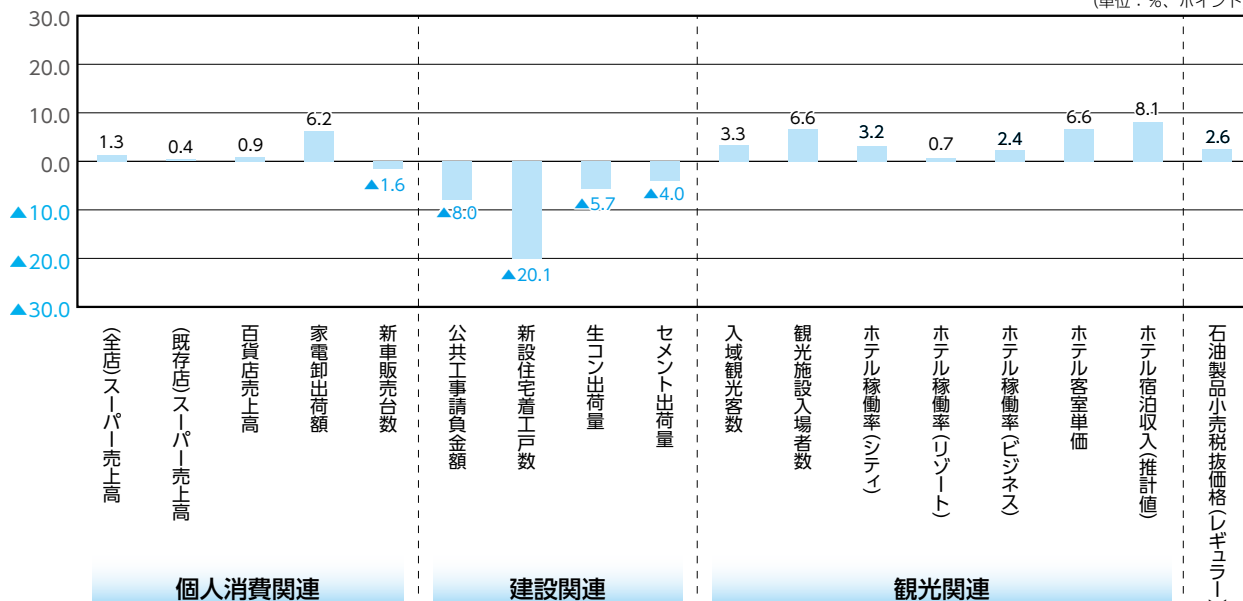
建設関連では、公共工事請負金額は、沖縄県や国などによる発注工事の減少などで前年同期を下回りました。新設住宅着工戸数は前年同期を下回り、建設資材である生コン、セメントはともに前年同期を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は旅行商品の高騰やクルーズ船の寄港回数減少等により外国客が減少したものの、ゴールデンウィーク（10連休）等により国内客の旅行需要が好調に推移したことなどから前年同期を上回りました。観光施設入場者数は前年同期を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同期を上回りました。ホテル客室単価・宿泊収入（推計値）はともに前年同期を上回りました。

このような状況に鑑みて、**個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断をしました。**

主要景気指標前年同月比

(単位：％、ポイント)





個人消費



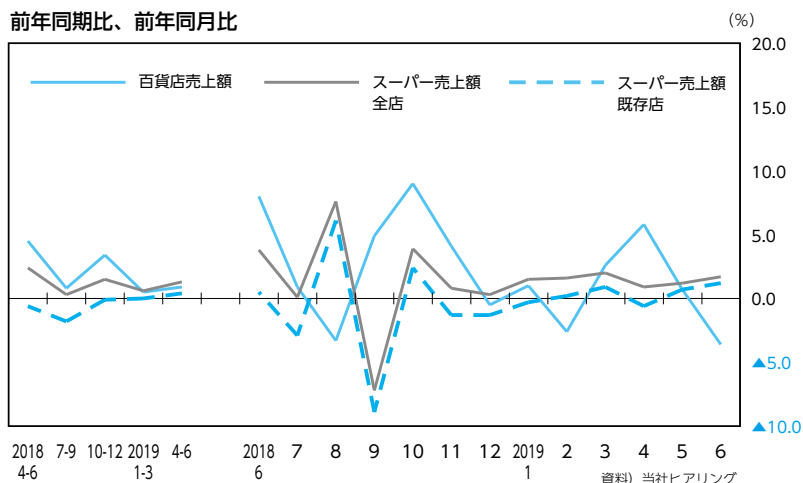
(やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同期を上回る。百貨店売上高も前年同期を上回る。

2019年4～6月期の個人消費関連
は、**スーパー売上高は「全店ベース（前年同期比1.3%増）」**で前年同期を上回りました。品目別では、「衣料品（同2.6%減）」が減少したものの、ウエイトの高い「食料品（同1.5%増）」や、家電を含む「家庭用品（同1.7%増）」の売れ行きが好調だったことから、前年同期を上回りました。

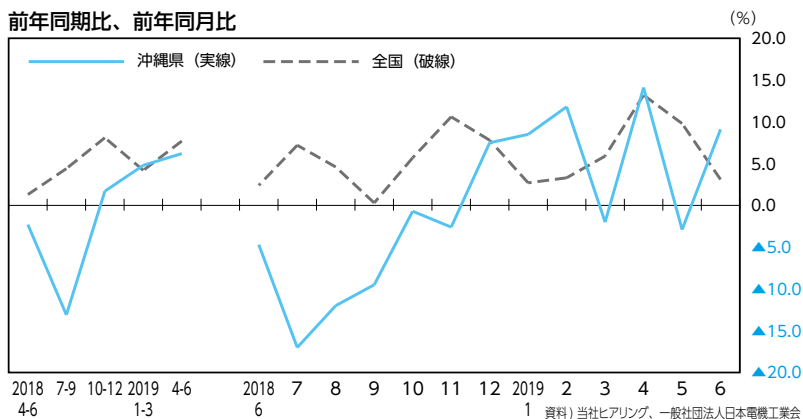
「**既存店ベース（同0.4%増）**」は、食料品、家庭用品が伸び、前年同期を上回りました。（以下、既存店ベース）品目別では、ウエイトの高い「食料品（同0.7%増）」は、精肉、鮮魚などの生鮮食品や、缶詰、カット野菜等の簡便商品などを中心に、全般的に売上が伸び、前年同期を上回りました。また、「家庭用品（同0.7%増）」は、家電や化粧品等の売れ行きが好調で、前年同期を上回りました。一方、「衣料品（同3.2%減）」は、前年に比べ梅雨の期間が長かったことなどから、夏物商材の需要が伸びず、前年同期を下回りました。

百貨店売上高は、食料品、雑貨などの需要が増加し、前年同期を上回りました（同0.9%増）。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品（同1.4%減）」は、販促企画により「紳士服（同1.3%増）」、「婦人服（同0.5%増）」が好調だったものの、「子供服（同4.4%減）」、「その他衣料品（同15.3%減）」が伸びず、前年同期を下回りました。一方で「雑貨（同7.5%増）」は、インバウンド需要の増加や、売り場のリニューアル効果などにより前年同期を上回りました。また、「食料品（同2.4%増）」は、物産展が好調だったことや、お中元商戦が早まったことなどにより、前年同期を上回りました。

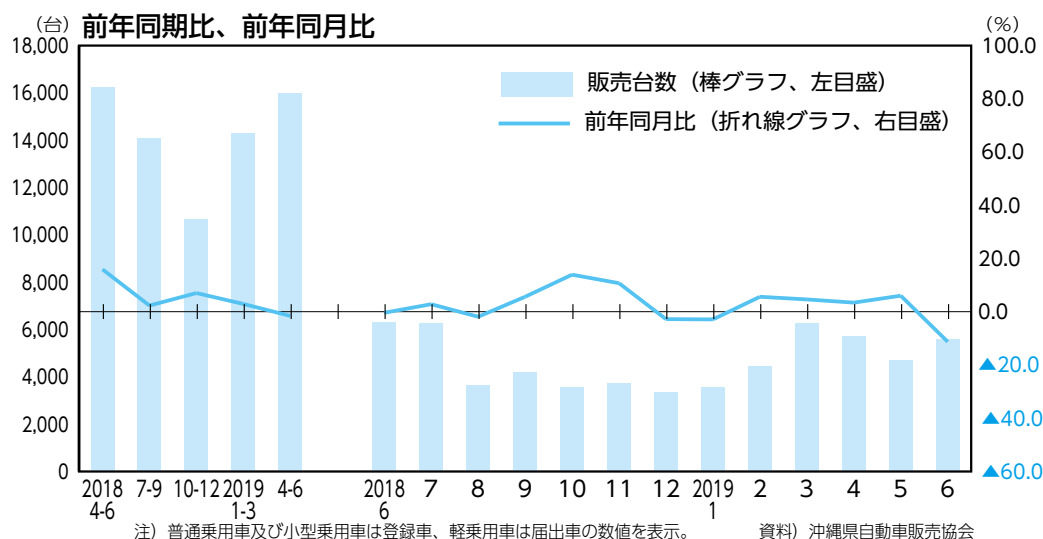


② 家電卸出荷額…冷蔵庫、洗濯機の売り上げが伸び、前年同期を上回る。

家電卸出荷額は、冷蔵庫、洗濯機の売り上げが伸び、前年同期を上回りました（同6.2%増）。品目別では、平均気温が低く推移したことなどから、「エアコン（同6.1%減）」の需要が低調で、前年同期を下回りました。一方、「冷蔵庫（同12.5%増）」、「洗濯機（同12.7%増）」は、買い替え需要が好調に推移し、前年同期を上回りました。「テレビ（同0.9%増）」は、4K対応テレビ等の売上が伸び、前年同期を上回りました。



③ 新車販売台数…普通乗用車、小型乗用車需要の減少から、前年同期を下回る。



新車販売台数は、全体で15,995台（同1.6%減）となり、前年同期を下回りました。車種別では、「普通乗用車（同2.1%減）」、「小型乗用車（同6.4%減）」はレンタカー需要の減少などにより、前年同期を下回りました。「軽乗用車（同3.1%増）」は、自家用車、レンタカー需要ともに堅調に推移し、前年同期を上回りました。

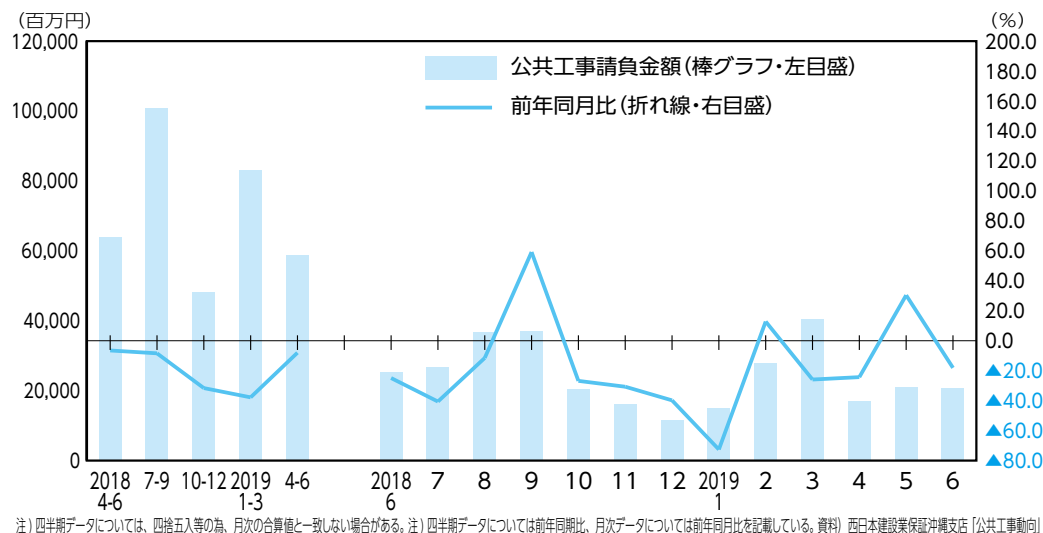
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

建設関連



(良い)

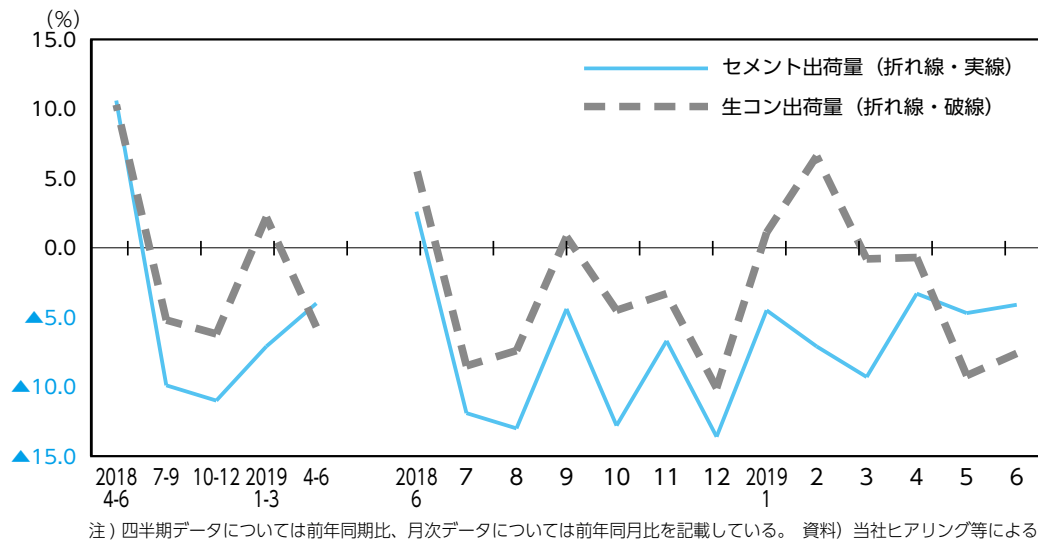
① 公共工事…公共工事請負金額は前年同期を下回る。



2019年4－6月期の公共工事請負金額は、前年同期比8.0%減の588億2,500万円となりました。発注者別でみると、「沖縄県（同33.4%減）」や「国（同28.0%減）」、「独立行政法人等（同46.6%減）」は前年同期を下回りました。一方で、「市町村（同44.1%増）」や「その他の公共的団体（同82.3%増）」は上回りました。

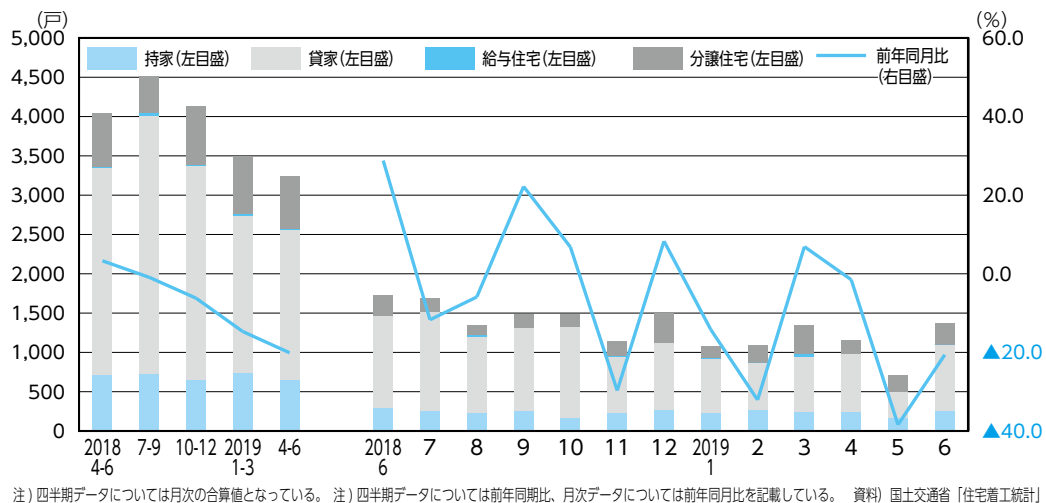


② 建設資材…生コン、セメントはともに前年同期を下回る。



2019年4－6月期の建設資材関連では、**生コン**の出荷量は5.7%減と前年同期を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷は前年同期より2.9%下回り、民間工事向け出荷は7.0%下回りました。**セメント**出荷量は4.0%減と前年同期を下回りました。

③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年同期を下回る。



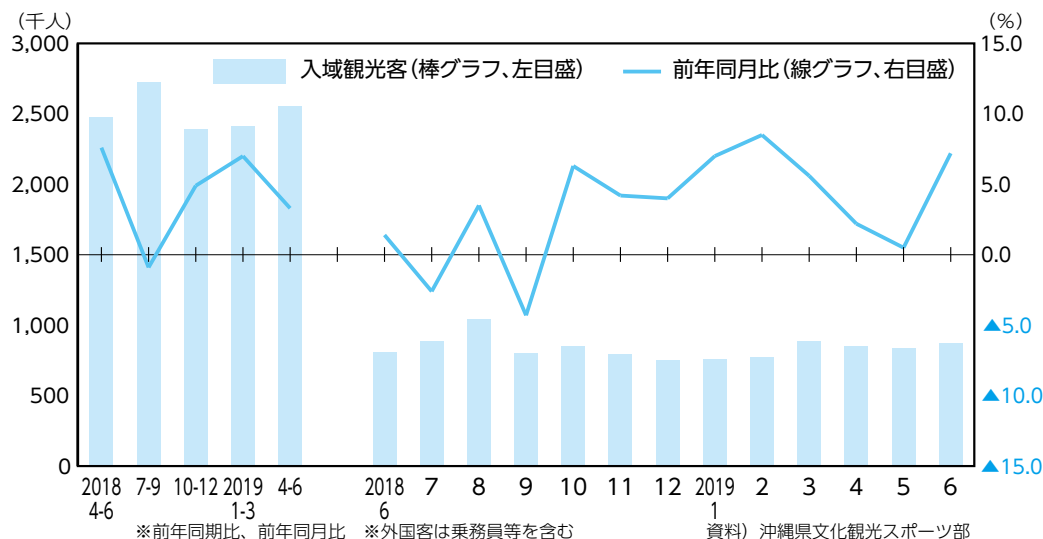
2019年4－6月期の新設住宅着工戸数は、全体で3,234戸となり20.1%減と前年同期を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家（同27.6%減）」のほか、「持家（同9.2%減）」、「分譲住宅（同4.6%減）」は前年同期を下回りました。一方で、「給与住宅（同1100.0%増（約12倍））」は上回りました。

観光関連

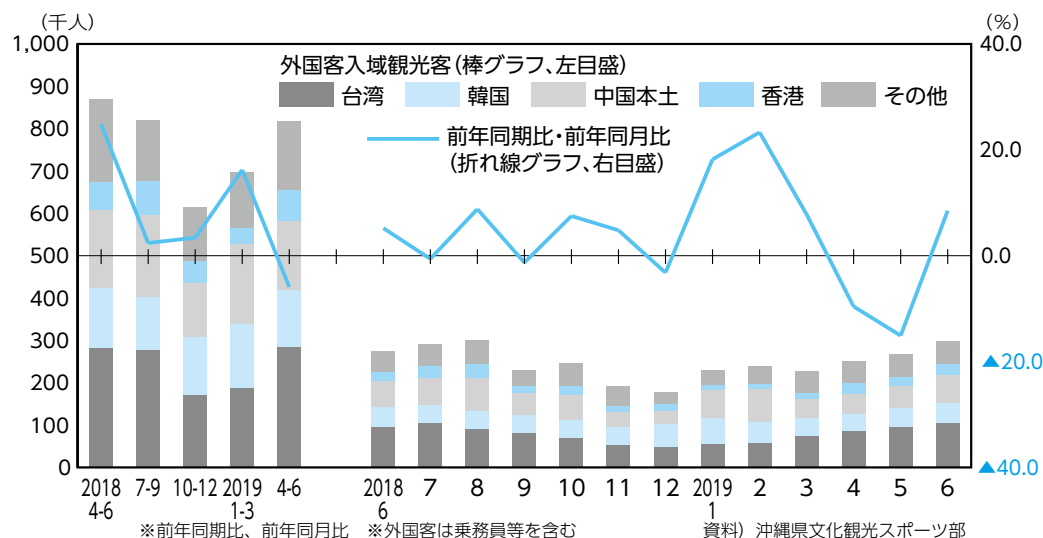


(良い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…3四半期連続で前年同期を上回る。



外国客 入域観光客数…26四半期ぶりに前年同期を下回る。



2019年4-6月期の入域観光客数は、旅行商品の高騰やクルーズ船の寄港回数減少等により外国客が減少したものの、ゴールデンウィーク(10連休)等により国内客の旅行需要が好調に推移したことなどから、全体として前年同期を3.3%上回りました。「国内客(同8.2%増)」においては、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりや航空会社の臨時便就航があったほか、旅行会社の商品販売強化の取組があったこと等から、東京方面(同9.0%増)や関西方面(同6.5%増)、名古屋方面(同10.5%増)、福岡方面(同4.4%増)などで前年同期を上回りました。

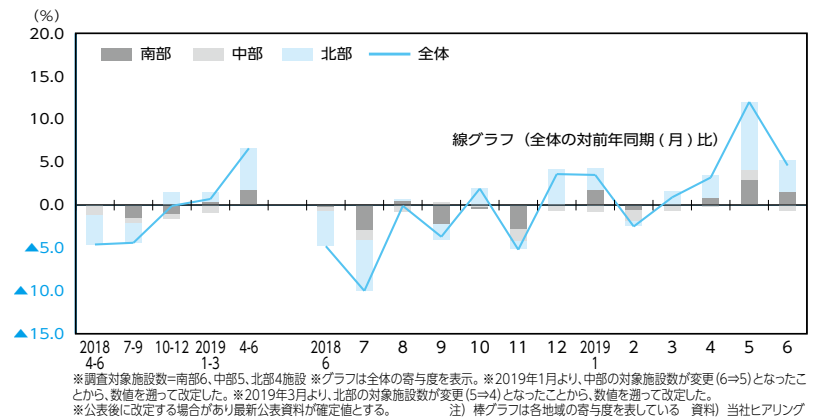
他方、「外国客(同5.9%減)」は、ゴールデンウィークが10連休となり旅行商品が高騰したことや、クルーズ船の寄港回数減少等により前年同期を下回りました。「中国本土(同10.7%減)」や「韓国(同5.5%減)」が前年同期を下回りました。一方、「台湾(同1.0%増)」や「香港(同6.5%増)」は、前年同期を上回りました。

※乗務員等を含む数値を掲載



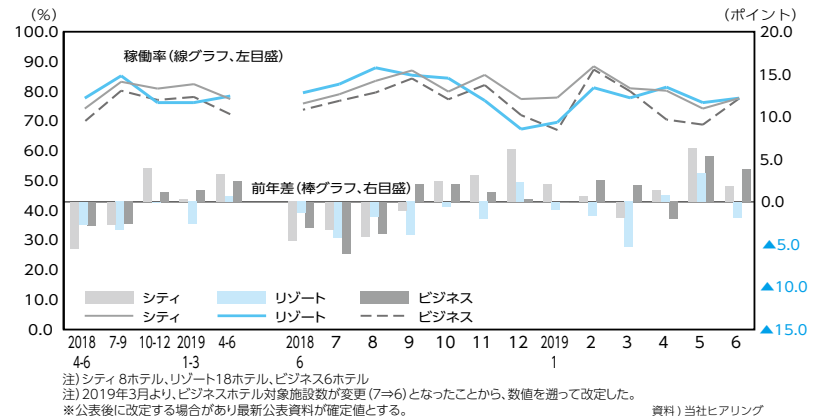
② 観光施設入場者数…各地域において前年同期を上回る。

観光施設入場者数は、全体で前年同期より6.6%増加しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同3.9%増、中部は同1.1%増、北部は同10.3%増とすべての地域において前年同期を上回りました。



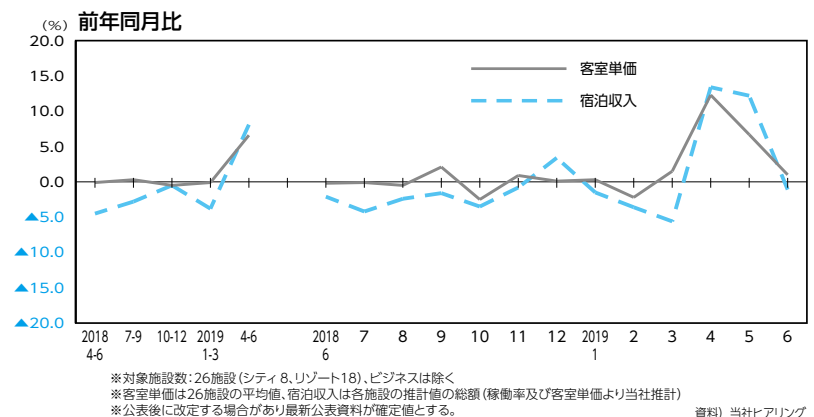
③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同期を上回る。

2019年4～6月期の県内ホテル稼働率は、シティホテルが77.4%と前年度差3.2ポイント上昇、リゾートホテルが78.4%と同0.7ポイント上昇、ビジネスホテルが72.3%と同2.4ポイント上昇しました。



④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同期を上回り、宿泊収入も上回る。

ホテル客室単価（シティ&リゾート）は前年同期比6.6%増と前年同期を上回ったほか、**宿泊収入**も同8.1%増と前年同期を上回りました。





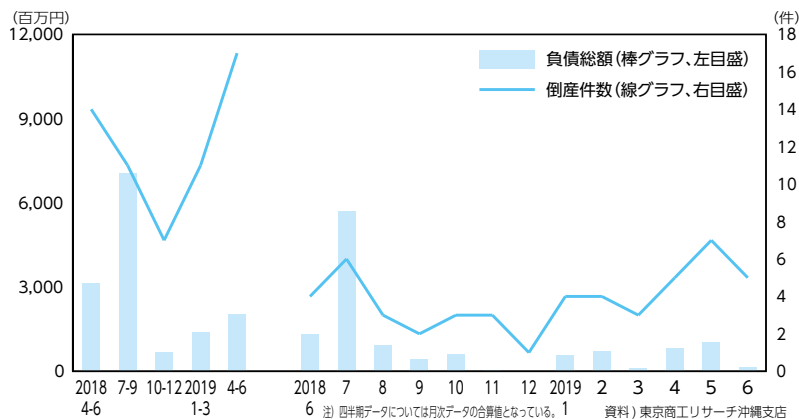
企業倒産



(やや良い)

企業倒産…件数は前年同期を上回り、負債総額は下回る。

2019年4-6月期の企業倒産件数は、17件（うち大型倒産はなし、大口倒産は3件）となり、前年同期より21.4%上回りました。**負債総額**は20億3,700万円となり、前年同期を34.9%下回りました。



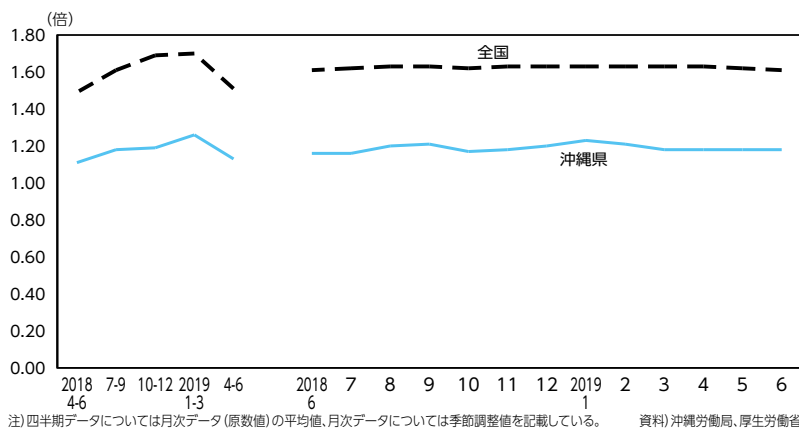
雇用関連



(良い)

有効求人倍率…沖縄、全国はともに前年同期より上昇。

2019年4-6月期の雇用状況は、有効求人数（四半期平均）は前年同期比4.2%増の30,443人に対して、有効求職者数（同上）は前年同期比2.5%増の26,998人となり、有効求人倍率（同上）は1.13倍となり前年同期より0.02ポイント上昇しました。



完全失業率…沖縄県、全国はともに前年同期より低下。

2019年4-6月期の完全失業率(原数値平均)は、2.7%となり前年同期より0.9ポイント低下しました。

